

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	京都府立舞鶴こども療育センター 放課後等デイサービスそらいろ		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 3日		～ 2026年 1月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2025年 4月 3日		～ 2026年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職からなる多職種による療育支援を行っています。	公認心理士、指導員、理学療法士等を配置し、専門性を活かした内容のプログラムを実施しています。	他の専門職の参加により、より多角的な視点で子どもの評価や活動の充実を図っています。
2	控室でモニターを通して活動内容が見学できます。	事前に活動内容のプリントを掲示して、当日の活動の周知を行っていることや、活動後にスタッフから保護者に振り返りの時間を設け、活動内容を説明する機会を設けています。	活動内容を記録してスタッフの振り返りにも利用し活動のさらなる充実を図る取り組みをしています。
3	医療と連携しています。	主治医やリハビリテーション科の職員とタイムリーに情報共有をしたり、支援が必要なお子さんを支援するために相談しています。	活動や内容について医療からの情報提供や、スキルアップのための研修等を通じて取り組みの充実を図ります。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者が低学年中心です。	就学後に集団活動やコミュニケーションに課題を抱えるお子さんを対象としたソーシャルスキルトレーニングを活動中心にしています。	主治医と連携し、高学年が抱える課題やニーズを整理し、対応できるスタッフの人材確保や育成を通じて保護者の希望に応える体制作りが必要です。
2	タイムリーな保護者の困り感や不安への対応に十分な時間をとれていません。	保護者への振り返りを活動後に行っていますが、限られた時間では活動報告が中心になってしまいます。またタイムリーに対応するためには営業時間外になってしまいます。	保護者を対象に、ほめ方やアンガーマネジメント等の知識の伝達をグループで行ってまいりました。それに加え、今後は保護者の困りごとや不安により細かな対応や支援ができるように、個別の相談機会を開けるように検討してまいります。
3			